

2015年11月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

～ かゆみについて ～

偕行会 セントラルクリニック 医師 郡山 奈穂子

秋の気配いよいよ濃く、日増しに寒気が加わり、肌の乾燥が気になる季節となりました。今回は透析患者さんの合併症の中でも頻度の高い『かゆみ』についてのお話です。

【かゆみとは】

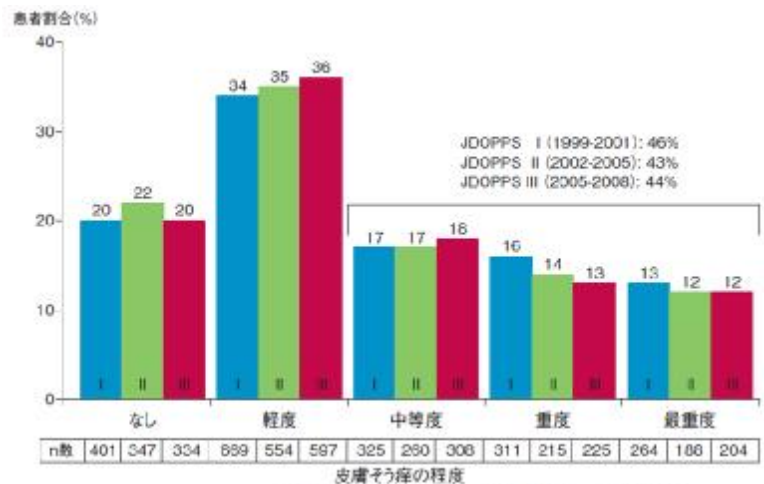
皮膚や粘膜を搔破(そうは)したくなるような不快な感覚のことを言います。

【かゆみの頻度】

現在 DOPPS という世界的な大規模調査が行われております。DOPPS I (1999-2001年)とDOPPS II (2002-2005年)とDOPPS III (2005-2008年)の調査に参加した、日本の透析患者さんのかゆみを調べた統計結果を図1に示します。

かゆみの訴えがない患者さんの割合は約20%で、中等度以上のかゆみを有する割合は43~46%でした。程度に差はありますが、かゆみを訴える透析患者さんの割合は、約8割にも及ぶことがわかりました。

しかもその頻度はこの10年でほとんど改善がないことも示されました。



Kimata N, et al: Hemodial Int 2014; 18: 657-67.

図1 日本の血液透析患者さんにおけるかゆみの頻度